

事業所における自己評価結果(公表)

※児童発達支援

公表:令和6年5月15日

事業所名 八尾市立障害者総合福祉センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	活動内容や利用人数にもよりますが、部屋の配置を変え、過ごしやすいように工夫しています。	
	2	職員の配置数は適切である	50%	50%	配置基準はみたしていますが、支援の密度を上げるには、保育士の人数がもう少し増えたらと感じています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	活動スペースと食事、排泄、お昼寝などの生活スペースの区別をつけています。子ども達が見通しを持ち活動できるように、写真カードでのスケジュール提示や活動の工程を示して知らせるように配慮しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	保育室の他、機能訓練室やスポーツホール、隣接する公園など活動の規模に応じて子ども達が存分に活動を楽しめるようにスペースの確保をしています。また、活動終了後には、清掃を行い、使用したおもちゃ等の消毒を毎日行っています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	施設外への研修の参加をし、自己研鑽に努めると共に、ケーススタディや施設内での研修を実施しています。今年度は、実践研究として日本教育医学会で発表も行いました。また、職員が集まる機会をつくり、ワークショップを行い利用児の食事についてのレポートの発表を行いました。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	児童発達支援管理責任者がアセスメントや児童発達支援計画を作成し、それを他の保育士等職員が作成ごとに確認、把握しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	夕礼後に翌日の準備を行い、月1回、ミーティング時に翌月のプログラムの計画を立てています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	今年度はデジタルリハビリの導入も行い、子どもたちが能動的に身体表出ができるように努めました。コロナ禍での様々な活動の制限を払拭すべく、活動の中で大胆かつ、普段とは違った経験ができるように、映像や移動器具も組み合わせ、子どもたちが様々な経験ができるようにプログラムを工夫しました。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	当施設にはHPS(Hospital Play Specialist;遊びを用いて医療環境をチャイルドフレンドリーなものにし、子どもたちが医療経験を肯定的に捉えるようにするため小児医療チームの一員として働く専門職)が在職しています。主に医療的ケアに関すること、摂食課題等、それぞれの個々の課題に対しては、子ども達が肯定的に物事を受け止められるよう、HPSが個別のプレイプログラムを立案し、個別活動にも取り組んできました。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	前日や当日に支援内容や個々に合わせた支援内容を確認しています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	全体での夕礼後、当日の子ども達の様子や変化、支援の反省点を共有しています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	毎日、リーダーの職員が、ケース記録に子ども達の様子を記録しています。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	保健所等からの問い合わせに対応しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	利用している子どもを担当している他事業所や、病院、訪問看護等と必要時には電話でやり取りをしたりして情報を共有しています。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%	子どもの保護者を通じて主治医からは指示書をいただき、その内容に従って支援しています。子ども毎にケースファイルに主治医や通院先などの連絡先を記入しいつでも連絡できるようにしています。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	移行先の認定こども園等との連携を行い、見学の受け入れに努めています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	毎年、年長児の就学支援として、就学先の学校との連携を行い、見学の受け入れや情報提供書の作成に努めています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	近隣の児童発達支援センターと並行利用する子どもも多く、必要に応じて情報共有を行っています。また、児童発達支援センターの担当職員が当施設に来所し、生活場面や活動場面での姿勢設定や介助方法等について指導や助言を受けています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	50%	50%	今年度は地域のお祭りへの参加や近隣小学校でのイベント等に参加をし、地域の子ども達との交流を試みました。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	50%	50%		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や電話でのやり取り、送迎時には直接保護者とのやり取りを行い、子どもの発達の状況や課題等についてはタイムリーにお話をさせていただいています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	75%	25%	保護者より相談があった場合、対応している。また、変化があった場合も都度伝えています。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明しています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	児童発達支援管理責任者より、支援計画更新時に保護者に計画書の内容を説明し、同意を得ています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	送迎時などに対応しています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	月間の保育活動については、毎月、お知らせを配布して周知しています。また、今年度からはInstagramを活用し、子ども達の生活や遊びの様子を即時にフィードバックできるように努めています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	ケースファイルは、鍵のかかるロッカーに保管しています。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	今後、デジタルリハビリの活用方法の一つとして、地域の子ども達にも体験してもらえるイベント等を考案しています。また施設全体では地域住民との交流を行う行事を他にも行っています。(納涼祭等)	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	防災訓練を行い、消防署立ち合いのもと、職員も消火器を使用した訓練などを実施しました。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	お薬手帳を持参していただき、服薬など把握しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%	給食に含まれるアレルギー食物について、表で確認し間違いないように提供しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	毎月職員が提出したヒヤリハットをまとめた事例集を回覧し、共有しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%	虐待防止委員会・身体拘束廃止委員会を開催しています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	やむを得ない場合のみ、支援計画に記載し、事前に保護者にも十分説明を行っています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。